

施策番号	449	施策名	道路網の整備	令和5年度主管課名	建設課
総合計画 体系	政策名	4	快適な生活環境の里づくり	令和5年度課長名	岩佐 誠己
	関係課名			シート作成者	岩谷 宣幸

1. 施策の対象と意図の指標

①施策の対象(誰、何が対象か)	③対象指標(対象の数・規模)	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 町道	→ ア 道路延長(町道)	km	見込値 実績値	 461	 461	461 461	461	461
イ 町内の国県道	→ イ 道路延長(国県道)	km	見込値 実績値	 165	 165	165 165	165	165
ウ	→ ウ		見込値 実績値	 	 	 	 	
②施策の意図(対象をどうしたいのか)	④成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 快適で安全な通行ができる	→ ア 町道が安全・快適に通行できると感じている町民の割合	%	目標値 実績値 達成率	61.5 62.6 101.8%	61.6 61.8 100.3%	61.7 60.9 98.7%	61.9 98.4%	62 98.2%
イ	→ イ 道路改良率	%	目標値 実績値 達成率	52.6 52.5 99.8%	52.7 52.5 99.6%	52.8 52.5 99.4%	52.9 99.2%	53.0 99.1%
ウ	→ ウ 道路舗装率	%	目標値 実績値 達成率	86.7 86.6 99.9%	86.7 86.8 100.1%	86.8 86.8 100.0%	86.9 99.9%	87.0 99.8%
エ	→ エ		目標値 実績値 達成率	 	 	 	 	
⑤成果指標 設定の考え方	アは、直接設問により有効と考えた。 イ・ウは、向上させることにより快適で安全な通行ができる。		⑥成果指標の 把握方法と 算定式等	ア 町民アンケート イ・ウ 道路統計資料				

2. 施策の役割分担

施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	①住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	②行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
	・道路などの公共施設を自らの財産と受け止め、適切に利用すると共に維持管理に協力する。 ・道路改良などの用地提供について協力する。	・優先順位等の判断により町道の整備を推進すると共に適切な維持管理を行う。 ・交通安全施設の整備を進めると共に自然環境や景観に配慮した整備を促進する。 ・国県道の整備促進のため、関係団体に対して整備を要望する。

3. 評価結果

5 年度 の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因
	①施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か?その要因は?) ・町民アンケートでの道路が快適・安全に通行できると感じている割合は、目標値に対して98.7%となっている。また、道路改良率・道路舗装率に関しても99.4%、100.0%と概ね目標を達している。要因としては、地元要望に対する対応や道路パトロールによる修繕または道路改良工事を実施したことによるものと考えられる。 ☐ 目標値を上回る ☒ 目標値どおり ☐ 目標値を下回る
	②成果指標の時系列比較(成果は向上したか?低下したか?要因は?) ・道路改良率・道路舗装率は、52.5%、86.8%と前年同値で増減していない。 ・町民アンケートでは、道路が快適・安全に通行できると感じている割合が前年比較して0.9ポイント低下となったものの全項目で横ばい傾向となっている。要因としては、道路改良及び新設舗装の要望により舗装修繕・側溝清掃・除草業務など保全要望が増えているため。なお、横断歩道及び停止線などの指示標示については、岡山県公安委員会の所管であり町としては対応が出来ないものである。 ☐ 向上した ☒ ほとんど変わらない ☐ 低下した
	③他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?) 岡山県内の市町村と整備標準と比較すると、道路改良率6.7ポイント(平均46.1%)上回っている。また、道路舗装率は、5.4ポイント(平均81.4%)上回っている。要因としては、道路整備を計画的かつ着実に実施したことと思われる。 ☒ 高い水準 ☐ ほぼ同水準 ☐ 低い水準
	2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など 本格的な道路整備が始まって概ね50年を経て、インフラの高齢化という困難な課題が急速に顕在化し、平成25年度に国が戦略的な維持管理・更新等の取組としてインフラ長寿命化基本計画が策定された。この計画に基づき、本町でも長寿命化計画を策定し、持続可能なインフラメンテナンスや防災減災など事後保全から計画的な予防保全にシフトしている。 住民からは、通学路対策や舗装修繕・側溝清掃・除草業務など安全性・快適性を求める要望が大半を占めている。
	3. 施策の振り返りと総括 (5年度の事務事業や取組の成果は?うまくいかなかった取組・問題点と原因は?) ①施策の成果向上につながった主な事務事業 道路維持補修事業費 ②施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業 土木総務経常管理費(負担金:道路事業協議会等負担金) ③施策全体の振り返りと総括 ・生活道路の幅員狭小区間の改良や歩道設置及び歩道帯表示により、通学路の安全確保を計画的に行った。 ・適切な道路修繕を行っていくため、道路の安全パトロールを拡充し、危険箇所の早期発見・改修に努めた。 ・地域とも連携し、側溝清掃や道路の草刈りなど地区による道路愛護活動を行い、生活道路の環境保全に努めた。 ・国県道は、重要なインフラであり、災害に強い道路網を構築するため、国県に対して整備促進の要望を積極的に行った。また、補助事業の拡充・予算確保についても要望を行った。
	4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?) ①今後施策の成果向上につなげる主な事務事業 道路維持補修事業費 ②施策全体の今後の課題と改革改善の方向 高度経済成長期に構築した道路及び橋梁の老朽化により計画的な修繕が必要になるが、昨今における人件費・原材料費の高騰化が進んでおり、コスト上昇が懸念される。また、少子高齢化のため、地域での維持管理活動が困難になって行くことから限られた財源の中で緊急性・必要性などを踏まえながらコスト縮減等の様々な工夫・取り組みを行うと共に道路の安全パトロールについても更に拡充し、早期発見・改修に努める。なお、国県に対して、引き続き要望活動を行い他の市町村とも連携し更なる要望活動を進める必要がある。